

活動成果報告書

平成26年度（第18回）「チョダ地域保健推進賞」

活動テーマ

健康づくりサポーターによる地域づくりへの活動支援

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

あわら市市民福祉部健康長寿課

代表者：大代 典子

勤務先：あわら市役所

所 属：市民福祉部健康長寿課

所在地：〒919-0692

福井県あわら市市姫三丁目1-1

TEL：0776-73-8023

FAX：0776-73-5688

E-Mail：chojyu@city.awara.lg.jp

サポーター活動報告会及び研修会



◇活動方針

あわら市の総人口は、平成7年をピークに年々減少しているが、65歳以上の高齢者数は年々増加している。平成25年9月末現在で、高齢化率は28.13%、75歳以上の人口割合は15.07%となっている。

また、市の医療費は年々増加し、県内でも上位となっている。後期高齢者医療保険においては、医療費が県内最高額である。

医療費の適正化を推進していく上では、「早期発見・早期治療」の必要性を若年層から定着させていくことや、健診（検診）受診者数の増加に努めるなど、生活習慣病予防対策が重要であるが、あわら市の受診率は、少しずつのびてはきたものの特定健診27.7%、がん検診35%（H23～25年平均）と今だ低率である。

本市には、保健推進員や地区組織活動がない状況であったため、平成23年度より、「自分の健康は自分で守る」という市民の意識の向上および特定健診・がん検診受診率向上を目的として、「健康づくりサポーター」の養成を開始、さらに、サポーターの居住地区を「健康づくりモデル地区・推進地区」として、行政主体ではなく、地域ぐるみで健康づくりに取り組めるように活動を支援し、今後さらに拡大していく方針である。

活動成果報告書

◇活動内容

1 事業開始の経緯

平成 16 年度の合併前、旧金津町では「保健推進員」を各地区 1～4 名委嘱し、健診の問診票配布、受診勧奨などの活動を依頼していたが、あて職・持ち回りの当番制となりがちであった。保健推進員から、「市からの依頼が負担である」「積極的な活動はしたくない」など苦情があり、推薦者である区長からも「選出が難しい」「依頼内容を軽減してほしい」などの意見も出ていた。

合併にあたり、旧金津町の課題を抱えたまま旧芦原町で新規に委嘱することは困難と判断し、保健推進員の委嘱を廃止とした。

しかし、推進員制度の廃止後、健診（検診）の受診率が大幅に低下し、推進員など地区組織の力の必要性を改めて痛感した。地区組織の再構築を検討した結果、平成 23 年度より健康づくりサポーターを養成することとなった。

2 事業内容

市民の中から「健康づくりサポーター」を募集し、養成講習会受講後、地域や組織において健康づくりのリーダーとして取り組む制度を整備するとともに、健康づくりサポーターの居住区を健康づくりモデル地区に指定し、地区民すべてを対象に、健康づくり事業に取り組んでもらった。

また、健康づくりモデル地区として活動した区は、次年度以降「健康づくり推進地区」として、健康づくり活動に継続して取り組んでもらった。

◇事業の成果、効果

1 健康づくりサポーターの育成にむけ保健師が取り組んだこと

- ・地域全体で健康づくりに取り組んでもらえるよう、担当保健師と健康づくりサポーターで、区長への事業説明、具体的な取組みについての情報提供をし、活発な活動につながるよう働きかけを行った。
- ・公募も行うがサポーターにふさわしい人がいる場合は個別に依頼した。
- ・地域に事業を丸投げせず、常にサポーターへの声掛けをし、活動状況の把握と要望を聴取し、出来る限り対応した。
- ・地域によって取組みの温度差があるため、情報交換や活動の成果について交流会を年 2 回開催し刺激をあたえるよう心掛けた。

2 平成 26 年度健康づくりモデル地区・推進地区活動実績

4 月～1 月活動回数：136 回 参加者数：3, 538 人
2 月～3 月活動予定回数：68 回

3 事業成果

(1) 健康づくりサポーターの意識の変化がみられた。

「あわら市の一人あたりの医療費が高いことや、健診・がん検診の受診率が非常に低いことが分かり、早期発見・早期治療で重症化予防には、健診を受けることが大切だと実感した」
「教室参加者に、受診状況の確認と未受診者への受診勧奨実施にて受診申込者が増えやりがいを感じた」
「地域の人達から、地域が一丸となって健康づくり活動が出来、継続して実施したいとの感想が出てきて、世話できて良かった」

(2) 地域の人達の意識の変化がみられた。

「健康意識が高められ、楽しく身体を動かすことが出来た。運動への良い動機づけができた」
「区の親睦が図られた。健康づくりの必要性が芽生えている」
「筋力アップが出来た。身体を動かす必要性を感じている。家でも、継続して実施したい」
「在宅ケアについて、大変勉強になった。紙芝居により地区住民の理解と協力の必要性を感じた」
「自分の健康や家族の健康づくりのための食生活について見直すきっかけとなった」

(3) サポーターの受診勧奨により健診受診率が微増した。

各種健診の受診率は、健康づくりサポーター事業を開始した H23 年度は特定健診並びにがん検診の受診率はどちらも伸びた。健康づくりモデル地区でも、8 地区/12 地区が特定健診受診率が前年度よりアップし

活動成果報告書

ており、20%以上伸びた地区が2地区見られた。平成24・25年度の受診率の伸びの平均では、サポーターのいる地区は2.3%とない地区と比較して高率であった。

◇今後の計画

1 特にPRしたいこと

地区組織としての活動の広がりや他機関との連携が出来てきている。最初は「健診の受診率向上」が大きなねらいであったが、熱心なサポーターの影響を受けて、「どのような教室をしているか一度見たい」とか「そんないい先生がいるなら、自分の地域でもやりたい」と見学に行くサポーターも出てきている。

また、健康づくり以外にもJAや社協等と連携して、介護予防教室や閉じこもり予防教室を開催するなど、活動の輪が広がっている。地域活動の広がりが出来たことをきっかけに、区民どうしのコミュニケーションが増え、支えあいに発展してきている。

2 今後の計画

- ・プロセスからアウトカム評価までの指標について検討する。
- ・健康づくりサポーターと共に効果的な受診勧奨方法について検討し、住民の声を施策に反映する。
- ・健康づくりサポーターの新たな人材確保のための情報収集（JA、商工会、社協、庁内他課等）
- ・現サポーターの養成講習会及び情報交換会の開催（11月、2月予定）
- ・健康づくり推進区が継続して活動を推進するための支援
（活動がみられない区に対し、出前講座を1回計画する）
- ・地域で健康づくりを広げていくために連携できる組織はないかを常に把握する。
- ・健康づくり活動を積極的に取り組んでいる地区の発表の機会を提供し、表彰する。

○ 健康づくりサポーター講習会及び情報交換会

（第一回目）

日時：平成26年11月11日（火）13:30～15:30

場所：あわら市保健センター

内容：ロコモ予防教室 県理学療法士会 柴田先生

活動状況中間報告・特定健診受診状況 妻川保健師

おばあちゃんの味アレンジ版試食会 角谷管理栄養士

参加者：12名

（第二回目）

日時：平成27年2月24日（火）

場所：あわら市食育スタジオ

内容：活動報告 大代課長補佐

生活習慣病について、調理実習 角谷管理栄養士

参加者：17名予定